Q 河川環境や研究成果のことを知ってもらうには、どのような方法がありますか？

A ホームページなどでの情報発信や、実際に体験してもらう方法があります。

■ 背景と目的

自然共生研究センターでは、河川環境の大事さや最新の研究成果を知ってもらうために様々な取り組みを行っています。その一例として、スマホなどで気軽に見てもらうことを目的とした様々なコンテンツによる情報発信や、河川を理解する力の養成を目的とした実験河川での体験型研修会を行っています。ここでは、当センターで実施している「知ってもらう」ための取組みについて概説します。

■ バーチャル空間による実験河川の紹介

当センターでは、河川景観を分かりやすく認識してもらうために「バーチャル空間」を活用した研究を進めています。例えば、「現実」にある街や川を「バーチャル空間」によって再現することで、現地を訪れることなくパソコンやスマホなどで空間内を自由に移動し、周囲の景観を確認出来ます。「バーチャル空間」は様々な方法で表現できますが、データが小さく扱いが容易なバーチャルツアーというコンテンツを使っています。このバーチャルツアーによって実験河川を疑似体験することができます（図1、2）。

■ 動画を用いた開発機能の紹介

当センターでは、「3次元の多自然川づくり支援ツール」に関する様々な機能開発や普及活動に取り組んでいます。本支援ツールは説明書では伝わりづらい操作方法などが一部あるため、解説や操作方法に関する動画を作成しYouTubeなどで公開してきました（図3）。公開された合計10本の動画は視聴回数が約8千回に到達するなど、皆さんにご活用いただいています。

■ 実験河川で行われる体験型研修・体験活動

様々な情報やコンテンツの活用により、現地に行くことなく状況の確認や景観評価などができるようになってきました。しかし、これらの情報は、現地に対する深い理解があってこそ有用だと考えられます。さらに、河川は地形の変化や今まで記録のなかった生物が見つかるなど、状況が刻々と変わるのが常です。そのため、「現地に対する感覚」を疎かにすることはできません。

これまでに、当センターでは河川管理者や学生などを対象に実際に実験河川へ入り、魚を捕まえる、ワンドの泥を手に取るといった体験を重視した研修会や見学会を継続して行ってきました（図4）。これまで河川と触れ合うことが少なかった人達にとって新しい体験を提供する場となり、現地を知ることで、新たな疑問が浮かぶなどこれまでの取組みに対する改善点を考えるキッカケづくりにも貢献しています。これからも様々な方法で最新情報などの発信に取り組みます。

図1　バーチャルツアー（水中視点）による魚類の生態情報の確認

図2　バーチャルツアー体験QRコード
https://www.pwri.go.jp/team/kyousei/jpn/research/220802_jikkenkasen/index.htm

図3　YouTube動画による操作説明

図4　実験河川での魚類調査体験

担当／林田 寿文